



石川早生芋(大阪府環境農林水産部農政室提供)



石川早生芋の子芋ご飯



発行所
大阪府農業会議

大阪市中央区農人橋2-1-33
JAバンク大阪信連事務センター3階
電話 直通 06(6941)2701~2
<http://www.agri-osaka.or.jp>
発行人 中谷 清

明けまして
おめでとう
ございます



令和8年元旦
大阪府農業会議
役職員一同

年金の
お受け取りは
JAで

JAバンク大阪(JA/信連)

JAバンク大阪へ

検索

新たななにわの伝統野菜
河内町原産の「石川早生芋」

南河内や泉州地域を中心
に古くから生産されるサト
イモ「石川早生芋」がこの
ほど、大阪府「なにわの伝
統野菜」に認証された。

農業会議が昭和58年に編
纂した「大阪府農業史」に
は、「石川早生種が南河内
郡石川村(現河内町)を原
産とすることは広く知られ
ているが、聖徳太子が生前
墓地を磯長村(現太子町)
叡福寺に造営された時に、
奈良の法隆寺から持参した
芋の一株が土地に適し、付
近の篤農家によって改良さ
れたのが始まりといわれて
いる」と来歴の記録がある。

また、この土地に適した
生育条件については、昭和
28年の「大阪府農林水産
業」で、「南河内郡地帯は
第3世紀層に属する粘質土
壤で耕土が深く、良質のも
のを産し(中略)泉南地帯
では殆ど、たまねぎの後
作とされ、砂質壤土あるい
は粘質壤土に栽培されてい
る」とある。昭和33年、大
阪は約360haの栽培面積
を誇る一大産地であった。

サトイモは、正月料理に
おいて、子孫繁栄を象徴す
る縁起物。未永く繁栄する
大阪農業の未来を切に願う。

(沼田)

新年のごあいさつ

大阪府農業会議会長 中谷 清

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、国では、昨年策定された食料・農業・農村基本計画に



において、米の生産性向上に向けた水田政策の見直し方針や地域計画の実現に向けた取組が明記されました。

府内ではこれまでに331の地域計画が策定されましたが、約2割の農業者が規模縮小の意向であり、一方で担い手が引き受けの意向を示している農地は1%にすぎないなど、担い手不足が大きな課題となっております。

地域外の担い手や新規就農者

新春を迎えて

大阪府知事 吉村 洋文

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、大阪府政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃から、地域の農地の保全と活用にご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。



昨年の春から秋にわたり開催された大阪・関西万博では、国内外から2900万人を超える方々にご来場いただき、大いに賑わいを見せました。この万博では、次代を担う子どもたちをはじめ多くの皆様が「いのち輝く未来社会」を体感し、関連投資や来阪者による需要拡大が大阪経済にインパクトを与えるなど、様々な効果をもたらしました。また、会場内外のイベントを通じて、大阪産(もん)を知っていただく絶好の機会になった

の受け入れの条件整備等が急務となる中、農水省は経営局長通知を発出し、地域計画の実現・ブラッシュアップに向けた取組を示しており、農業委員会の機能・役割が十全に発揮できるよう農地法制の見直しも検討しております。

農業委員会は、日頃の農地利用の最適化活動を通じて十分に農業者の意向を把握し、協議の場への参画、目標地図素案の更新など、地域の実情に応じて取り組んでいくことが求められております。

また、府内では、男女共同参

と実感しております。

大阪府では、この万博のインパクトを最大限に活かし、さらに大阪産(もん)や農空間の魅力を広く発信していくとともに、成長し持続する農業をめざし、力強い大阪農業の実現に向けた取組をしっかりと進めてまいります。

さて、府内の各農村地域において、令和6年度中に策定いただいた地域計画を実現するため、地域の協議に向け調整にご協力いただいているところです。

本年も引き続き、この地域計画の実現に向け、担い手への農地の集積・集約化を図るととも

画社会の推進、女性農業委員の登用促進の観点から女性委員の組織化の検討を進めております。

府内の女性委員は多様なご経験をお持ちの方が揃っており、消費者視点をお持ちの皆様の知見が農地利用の最適化活動に反映されるよう期待を寄せております。

大阪府におかれましては、地域計画の実現をはじめ、引き続き広域行政として、大阪農業の振興発展のため、ご指導・ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

大阪府農業委員会組織では昨

に、農業経営の改善、新規就農や企業の農業参入による農地利用の最適化などの取組をしつかりと進めてまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

府民への食料の安定供給の観点からも、身近なところで「食」を確保する都市農業の重要性が再認識されています。

こうした中、大阪府では畜産を除いた1鈴あたりの大府の農業産出額を全国1位とすることをめざし、スマート農業の開、高収益作物への転換を図る基盤整備の取組等をさらに推進するほか、多くの府民のご理解

年4月より「農地を活かし、持続可能な大阪農業を創る運動」を推進しております。

農業委員、推進委員の皆様方におかれましては、引き続き、地域農業者の代表、地域の世話役としての活動を一層充実させていただき、大阪農業の活性化に格別のご尽力をお願いいたします。

結びに、皆様方にとりまして本年が希望に満ちた佳き年となりますようご祈念申し上げ、新年のあいさついたします。

とご参画のもと、様々な公益的機能を有する農空間の保全と活用に取り組んでまいります。

加えて、「大阪府肥料価格高騰対策支援金」の給付を継続して行うことにより、長引く物価高騰により厳しい状況に直面している農業者を守ってまいります。

引き続き、農業委員会、市町村、大阪府みどり公社、JAなどの関係機関の皆様と連携し、様々な取組を進めてまいりますので、一層のご理解、ご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう祈念し、新年のあいさついたします。

府内先進事例を学び運動を推進

令和7年度食料・農業実態視察

農業会議は12月1日、府内農業委員会ネットワーク組織が取り組む「農地を活かし、持続可能な大阪農業を創る運動」を一層推進するため、令和7年度食料・農業実態視察を実施した。農業委員会会長など24人が参加した。



安威川ダム立体模型で説明を受ける参加者

まずはじめに、株式会社中野農園の高槻市工場を訪問。同法人は門真市でかいわれ、豆苗、ブロッコリー等のスプラウト栽培を営んでいたが、需要増加に対応するため、令和3年9月、国の国産農畜産物供給力強化対策事業を活用し、高槻市内に農

地の底面を全面コンクリート張りにした農作物栽培高度化施設を新設した。平成22年にJGAPの認証を取得しており、また収穫から出荷までのコールドチェーン化を図っている。視察では、栽培工程毎に施設内を巡回。実際に稼働している機械の前に、中野剛代表取締役から作業内容・施設内温度管理等の説明を受けた。

2件目は、茨木市内にある農事組合法人見山の郷交流施設組合を訪問。同法人は都市と農村の交流を推し進め、地域の活性化の推進を図っていくことを目的に平成13年11月に設立された。農作物の加工設備も備え、生産した加工品は併設の

直売所で地元農産物と共に販売している。同法人の大神平理事は、「法人の継続には後継者の育成が大きな課題」と運営の苦悩を語った。

地域の特産物である赤しそを使用した「見山赤紫蘇サイダー」や、「龍王みそ」の紹介を受け、参加者は直売所で商品の実物を確認した。

続いて、茨木市北部の安威川ダムを視察。府茨木土木事務所地域支援・企画課安威川ダムグループより、建設事業の目的や役割、周辺の整備事業について説明があった。

昭和42年の北摂豪雨災害を契機として、下流域の洪水被害の防止を目的に、府がダム建設の構想を立案。農地を含む水没集

基本計画実現へ要請

全国農業会議所は11月27日、東京都内・文京シビックホールで全国農業委員会会長代表者集会を開き、大阪府から各地区農委連合会会長、農業会議役員など14人が参加した。

集会では、「令和8年度農業関係予算の確保及び新たな基本計画の実現と農業構造の転換の推進に向けた要請決議」を採択。

落等との協議・移転等を経て、令和6年3月に完成した。

ダム建設では、6地区が移転対象又は残土処分地区に。移転処分地区はほ場整備により、営農を再開している。

ダム周辺では、豊かな自然環境を活用した府民交流の場づくりの一環で、現在、官民連携による公園や吊り橋などが整備されており、今後もダム周辺地域の活性化に向け、整備が進められることとなる。

参加者からは水位の管理状況や残土処分地の場所等について質問が相次ぎ、府からは1000分の1へ縮小された立体模型を使用した説明がなされた。

(中島)

全国農委代表者集会

その後、基本計画に定められた食料自給率目標の達成や食料自給力の増大に向けた予算措置等について、大阪選出国會議員等に対して要請した。

このほか、2案件の申し合わせ決議の採択と、富山県入善町、長崎県長与町、群馬県明和町農業委員会による農業委員会活動の事例報告が行われた。(沼田)

月間農政ファイル

11・21～12・20

11・28 政府は、令和7年度補正予算案を閣議決定し、農林水産関係予算は9602億円となった。前年度より約10%(924億円)の増額。29年度までの5年間で「農業構造転換集中対策期間」と位置付け、農地の大区画化や共同利用施設の再編などに2411億円を計上した。

12・12 農水省は、令和7年度産水稲の主食用米収穫量が全国で約718万1000ト(前年比66万2000ト増)の見込みと公表した。大阪府では1万9700ト(同500ト減)の見込み。今年度から生産者が使用するふりい目幅(1・80ミリの1・90ミ)で収穫量を公表する。

12・15 農水省は、令和7年農林業センサスの結果、府内農業経営体数は5699で前回調査(令和2年)の7673経営体から1974経営体(25・7%)減少と公表した。個人経営体数は1982経営体(26・2%)減少し、5576経営体。団体経営体数は8経営体(7%)増加し、123経営体。

「日本の備蓄はたった約1.5カ月分。米・農産物の増産の検討が最重要の課題」と鈴木氏

都市農地貸借円滑化法事例②

地域に根付くイチゴづくりを

大阪市・山口 博之さん

山口ファームの山口博之さん

(55)は、都市農地の貸借の円滑化に関する法律により、昨年4月に大阪市東住吉区の生産緑地13㍓を借り受けて新規就農した。府が北部地域で令和4年度に実施した「いちごアカデミー」での研修を終えて、農地を探していたところ、前職である施設園芸資材メーカーとしての業務のつながりから、今の生産緑地の

の所有者と知り合った。

所有者は高齢のため農作業を続けることが難しく、貸付の意向があることを知った山口さん。「大阪市はイチゴの主産地ではないが、地域住民と関わる農業が出来るのではないか」と都市部の立地に魅力を感じ、借り受けるに向け、大阪府中部農と緑の総合事務所経由で市に相談。大阪市における同法に基づく初め

ての貸借事例となった。

現在、高設栽培の設備を導入し、イチゴ「章姫」を栽培。前職で販売していた設備を自作で設置するなど、培ってきた知識を活かしている。多くの新規就農者が設備ごとの特徴や栽培手法との相性を試行錯誤しながら覚える中、既にその知識を有していることは、新規参入に向けた障壁の一つを軽減することに繋がった。

これから収穫を迎えるイチゴは、市場出荷や小売店での販売を予定しているほか、大阪市内

の住宅街という立地から地域住民に声をかけられる機会も多く、軒先販売など直接交流を伴う販売方法についても検討している。

山口さんは、「まずは美味しいイチゴの安定生産が目標。山口ファームのイチゴとして地域に根付けば、体験摘み取りなどの地域に密着した活動なども検討したい」と話す。

(沼田)



この冬に初めての収穫を迎えるイチゴとともに

なにわ農業賞受賞者紹介89

地域農業をけん引する担い手に

富田林市・辻田 陽平さん

確保・費用低減を図っている。

富田林市別井の辻田ファームリーファームの辻田陽平さん(48)は、千両なすとキュウリの施設栽培を中心に、約150㍓の農地で営農している。

先代から受け継いだハウス14棟は1カ所に集約されており、加温設備による温度制御をすることで、省力化と安定した周年出荷体制を確立している。

子どもの頃から親の農業を継ぐことを志し、府立農芸高校を卒業後、造園会社での勤務を経て23歳で親元就農。代々受け継がれてきた良質なナス苗の自家生産が特長で、苗代が高騰する中でも、接ぎ木苗を自前で育成することで品質

生産した野菜は市場出荷が中心であるが、コロナ禍を機に農園の軒先に野菜の自動販売機を設置した。地元住民からは新鮮でおいしい野菜が手軽に買えると好評を博してお



ナスの苗を生産するハウスで

るほどの人気。令和元年の受賞当時には消費者への直接販売を志向しており、これが形になったものだ。

地域の活動にも積極的に、富田林4日クラブ会長、JAナス部会会長や青壮年部長などを歴任。近隣地区で営農する同世代の農家とともにドロ

ンの免許を取得し、農業の自動散布を請け負うなど、高齢化が進む地域農業の支援にも取り組んでいる。また、地元の若手農業者らで運営する「富田林市きらめき農業塾」の研修受入農家の1人として協力し、毎年塾生が辻田さんの苗づくりの見学に訪れるなど、次世代の担い手育成にも協力を惜しまない。

辻田さんは「担い手の高齢化が進む中で、地域農業と農地をどう維持するかが課題。現役世代として真剣に取り組んでいきたい」と話す。

(沼田)

農業者組織と府幹部職員が 意見交換

経会・法人協・大青協が共催

大阪府農
業経営者会

議（稲田元正会長）と大阪府農
業法人協会（藤田善敬会長）は



営農現場における様々な課題について意見交換した

昨年12月8日、大阪府農協青壮年組織協議会（中筋秀樹委員長）と共催で、大阪市内で府環境農林水産部幹部職員との意見交換会を開いた。

経営者会議役員・法人協会会員、大青協役員の農家19人、府からは塩屋農政室長、溝淵推進課長をはじめ各農と緑の総合事務所農の普及課長ら12人など計52人が出席。

会では、「営農条件に応じて必要な担い手支援」を協議テーマとして設定し、まず大阪府の担当者が「地域計画の分析結果」について説明した。

府内331地区の地域計画を分析したところ、約1800軒が10年後に担い手不在となる恐れがあり、地域が認識する現状の課題としては、9割以上の地区で担い手の確保が挙げられているほか、農地条件の改善や収益性向上を課題としている地区が多いことを説明。担い手の経営拡大に向けた支援の充実や基盤整備等の強化を図っていくことを述べた。

続く意見交換では、住宅地に囲まれた農地での周辺住民との共存に苦慮している声が多く挙げられた。また、本来公益性があ

るはずの水路について農家だけに管理の負担がかかっていることを懸念する意見も出された。

担い手支援についても、新規就農者の確実なステップアップにつながるよう段階的に支援するとともに、中堅農家の営農継続に向けた支援も必要であるとの指摘があった。

また、補助事業の導入に際しては、都市部に適した評価基準が必要との意見や、規模拡大を前提とした設備導入だけでなく、既存設備の改修にも使える柔軟な支援策を望む声も上がった。

（沼田）

天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員

森田 彰朗

第二十二回

「富士山と気象」

新年なので富士山のお話

明けましておめでとうござい
ます。本年も「農業気象コラ
ム」をよろしく願います。
今回は新年ということで、い
つもと趣向を変えて、富士山の
ことをお話しします。

一番早い初日の出を拝める



元日のテレビで、ヘリからの
富士山の初日の出を中継してい
ますが、離島以外では、富士山
頂が初日の出が日本で一番早い
場所とされています。これは、
○同じ経度なら、冬はより南の
方が早く日が上る。
○同じ緯度なら、より東で、高

い標高の方が早く日が上る。
という原則を元に計算すると、
富士山頂の初日の出の時刻が、
日本一早くなるそうです。ちな
みに離島も入れると、我が国最
東端の南鳥島が富士山より早く
初日の出を迎えます。

富士山頂に測候所があった

富士山頂には昭和11年から測
候所が置かれ、気象観測を行っ
ていました。富士山は独立峰で
標高が高いので、上空の風や気
温を測定する上で、重要な観測
所でした。また、伊勢湾台風に
よる大災害の反省から、台風監
視の最前線として、気象レー

ダーも設置されました。

その後、衛星観測などの導
入により、測候所とレーダー
は廃止され、平成16年から無
人観測（アメダス）になりま
したが、測候所跡は今でも雷
や高層気象の研究に利用され
ています。

今度富士山を見たら、ここ
が台風観測の最前線だったこ
とを是非思い出してください。

ワンポイント農業気象

（1月）

冬型気圧配置による降雪と
凍結（特に山間部）



第117回常設審議委員会

農業会議は12月19日、第117回常設審議委員会を大阪市内・JABANK大阪信連事務センターで開いた。

第1号議案の農地法第4条及

び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件(高槻市、茨木市、能勢町、和泉市、田尻町、泉南市、阪南市、堺市、富田林市、松原市、大阪狭山市農業委

員会会長) 25件(9万7829平方メートル)を許可やむを得ないと認め、回答することを議決した。

【第1号議案】

第4条	2	1083
第5条	23	9万6746

私は、大阪の南河内地域に位置する河南町でハウスいちごを栽培している。この冬で新規就農3年目のシーズンとなる。

非農家出身である私は、本格的な農業経験はゼロだった。自宅の庭で、家庭菜園を趣味で楽しむ程度だった。前職は、コンサート会場などで照明を操作する照明オペレーターという職についており、農業とは全く違うエ

思い切って退職。大阪の農業大学校へ入学した。

農業大学校ではぶどうを専攻。学生生活と並行しながら、知識を深める為に野菜ソムリエの資格取得や、地元の果樹農家のもとで経験を積んだ。その頃、授

業の一環として、新規就農を目

農を目指す「いちごアカデミー」で一からいちご栽培について学びながら、新規就農を目指すことにした。

しかし、新規就農への第一歩である農地探しは想像以上に険しい道のりだった。農地の大きさや日当たり、水の利便性など



苅屋つむぎ

代表 田中 麻綾

「今こうで農業が出来ることに感謝して」

随 想

指す中で自分は今後何を栽培していくか考える機会があった。これから長く続く農業人生。自分自身が、身体的にも負担が少なく作業を行える高設いちごに興味をもった。何より、いちごの栽培過程の作業内容が自分に合っているように感じた。そこで、大阪の南河内地域で新規就

を揃える理想の土地は簡単には見つからない。何度も農地へ足を運んでは条件が合わずを繰り返した。探し始めて1年半ほどでやっと見つかった候補地。営農計画などをまとめて、地主の方へ説明したが「女性一人では難しいでしょ」と断られた。「もう新規就農は、諦めたほう

を揃える理想の土地は簡単には見つからない。何度も農地へ足を運んでは条件が合わずを繰り返した。探し始めて1年半ほどでやっと見つかった候補地。営農計画などをまとめて、地主の方へ説明したが「女性一人では難しいでしょ」と断られた。「もう新規就農は、諦めたほう

合計 25 9万7829

(農地区分別件数は、3種農地

13件、2種農地10件、1種農地2件)

吹田市、貝塚市で農委研修

吹田市農業委員会(吉田俊之会長)は11月26日、貝塚市農業

委員会(古家克之会長)は12月8日、それぞれ農委研修会を開催し、農地法や農委・農業をめぐる情勢をテーマに研修した。

がいい」そう神様に言われているようにも感じ、落ち込んだ。

それでも続けられたのは、当時いちごアカデミーで指導してくださった講師の言葉だった。

「希望の農地が無いからと、ここで諦めたらあかん。絶対に次に見つかるから」と諦めないよう背中を押してくれた。

本当に不思議なことにその後すぐ、いちごアカデミーで出会った先輩農家の方の紹介で条件に合う耕作放棄地が見つかった。

農地探しは、ものすごく大変だった。でも、その過程で出会った人たちに支えられ、こうして今いちごを育てられることに本当に感謝している。

私には夢がある。それは、地域の高齢者施設に笑顔溢れる、小さないちご園をつくることだ。

高齢化が進む故郷に、いちごを通して幸せを届けたい。それが私の夢であり、同時に叶えたい目標である。

就農1年目の直売で、心に残

◇筆者の紹介(たなか まあや) 河内長野市の非農家出身。農大在学中には全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞。令和5年にいちご農家として独立。

なにわの伝統野菜、25品目に

大阪府が「石川早生芋」を認証



ほ場風景（大阪府環境農林水産部農政室提供）

大阪府は昨年10月3日付けで、「石川早生芋」を新たな「なにわの伝統野菜」に認証した。なにわの伝統野菜は、①昭和初期以前（概ね100年前）から大阪府内で栽培され、②苗・種子等の来歴が明らかで大阪独自の品目・品種・栽培方法によるもの、又は府内特定地域の気候風土に育まれたものであり、栽培

培に供する苗、種子等の確保が可能で、③現在も府内で生産されている野菜を認証するもの。今回の認証を含め、計25品目が認証されている。

石川早生芋は、粘質で味が良く、芋が小ぶりで丸いうえ、早生種であることが特徴。江戸時代には原産である南河内郡石川村（現河内町）を表す「河州石川」の名とともに生産・流通の記録が寛政11年（1799年）の「青物市場記」に確認されるなど、古くから大阪の土地に適し、生産されてきた。

現在も、南河内管内では石川早生芋が生産されているほか、泉州地域では、石川早生芋と

もに同系の「中野早生芋」が生産されるなど地域に根付いており、先述の3要件を満たしていることから認証に至っている。元大阪府立食とみどりの総合技術センター（現・地独大阪）

府立環境農林水産総合研究所）主任研究員の森下正博さんは、「今回の認証に際して来歴等の調査に携わった。長年の研究が認証という形で実を結び、安堵している」と話す。（沼田）

歴史ある特産品を市民にPR

門真市農委

門真市農業委員会（西村覚会長）は11月8日、門真市農業まつりの記念事業として、同市農業の市民理解の促進を図るため、同市の特産品で、一昨年「なにわの伝統野菜」にも認証された河内れんこん（門真れんこん）の写真展示を行った。

た農具も並べられ、来場者の関心を集めていた。

西村会長は「門真れんこんをより多くの方に知っていただき、なにわの伝統野菜として後世に残せるよう、今回の写真展が少しでもお役に立てれば」と話す。（林佑）

写真展示を行った。

写真展示を行った。

石川早生芋の魅力是和菓子に

地元店舗が開発

富田林市喜志の和菓子屋「御菓子司 かつら屋」では、石川早生芋を使用したお菓子「太子の里」を販売している。

を用いたお菓子を数多く販売。また、無添加で素材の味を活かす、季節ごとのお菓子づくりを、とことん追究してきた。

平成20年に（一社）大阪府食品産業協会（当時）と連携して石川早生芋の粉末化に取り組んだ。白あんに練り込み、石川早生芋の食味と風味を楽しめるお菓子となっている。

同店ではこれまでも河内ワインやイチジクなど南河内の特産

2代目代表・奥田辰造さんは、

「この地に根差す和菓子屋として、これからも石川早生芋をはじめとする南河内の特産を活かし、試行錯誤を重ねながら、地域の魅力を伝える菓子づくりに取り組んでいきたい」と話す。（沼田）



同市では古くから粘土質の土壌に恵まれ、市内に自生していたレンコンに品種改良を重ねてきた。昭和初期以前から独自の栽培方法により誕生したものが門真れんこんで、もちもちとした食感と独特の粘り気が特徴だ。



西村会長と11月8日の展示ブース